

未就学児を持つ母親のSNS利用について



生活文化学科 安藤ゼミ 08465087
佐藤美礼

問題関心

- ウェブログやソーシャルネットワーキングサービス(英語: Social Network Service, SNS)の利用増加
- 育児日記、〇〇ママというハンドルネーム
- 住んでいる場所や年齢を問わず、共通の趣味や話題を見つけてコミュニティを形成



先行研究

- ソーシャルネットワーク研究
世界最大「フェイスブック」の会員数・・・6億人
日本国内「mixi」・・・2000万人
「Twitter」2008年登場・・・1000万人
 - 外向的でネットワークを広げることに熱心な人ほど
メールや携帯の使用時間や頻度が高い(吉田;2004)
- ➡ 育児中の母親に焦点をあてたSNS研究をする



目的

①どのような母親がSNSを利用しているのかという
実態調査

- SNSの利用者群と非利用者群の差

②SNS利用のソーシャルサポート効果



方法

○ 調査時期 2011年7月～9月

○ 対象者

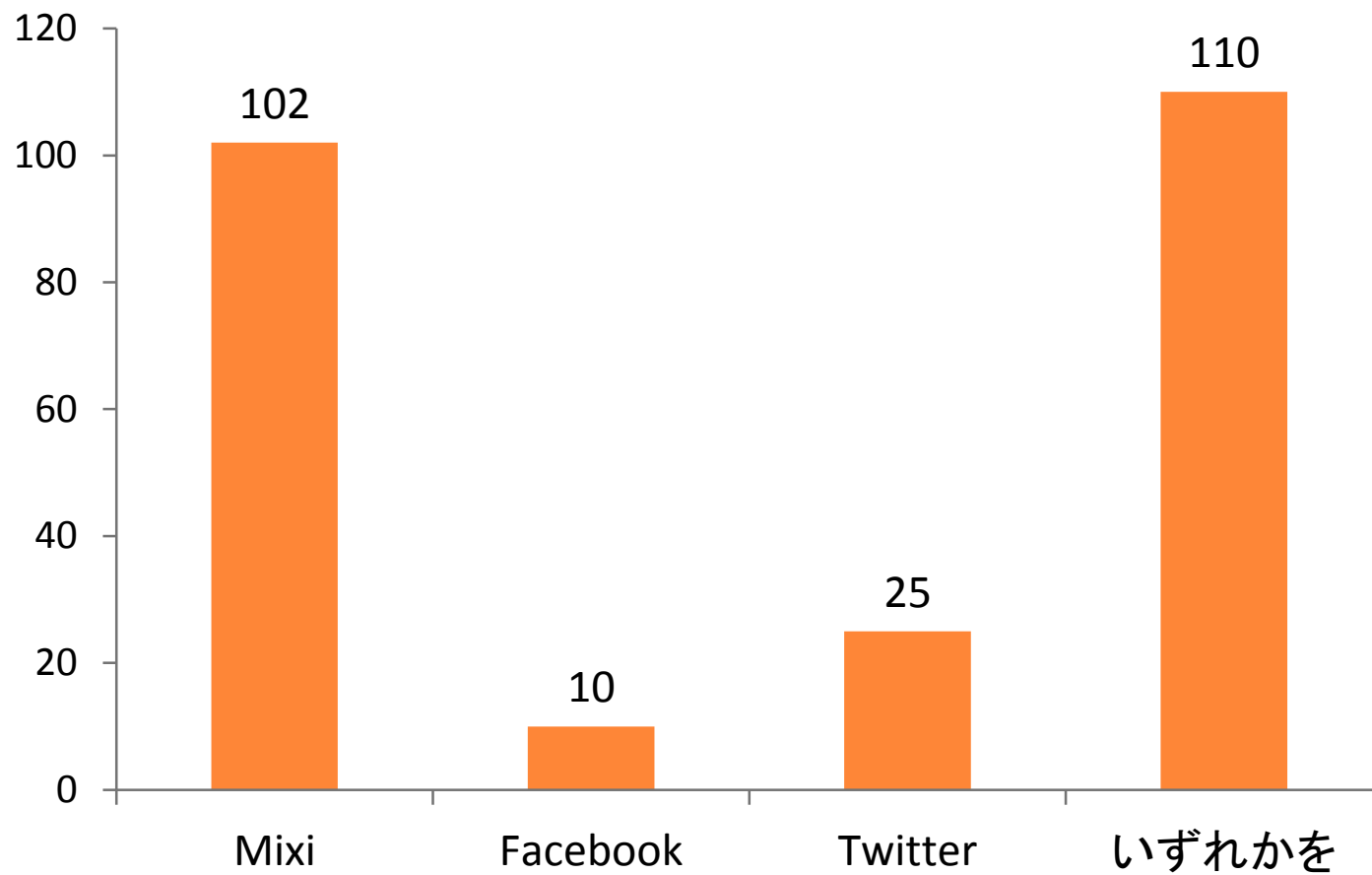
愛知県内の幼稚園・保育園に通う子どもを持つ母親784名

回収数497部(合計回収率63.3%)

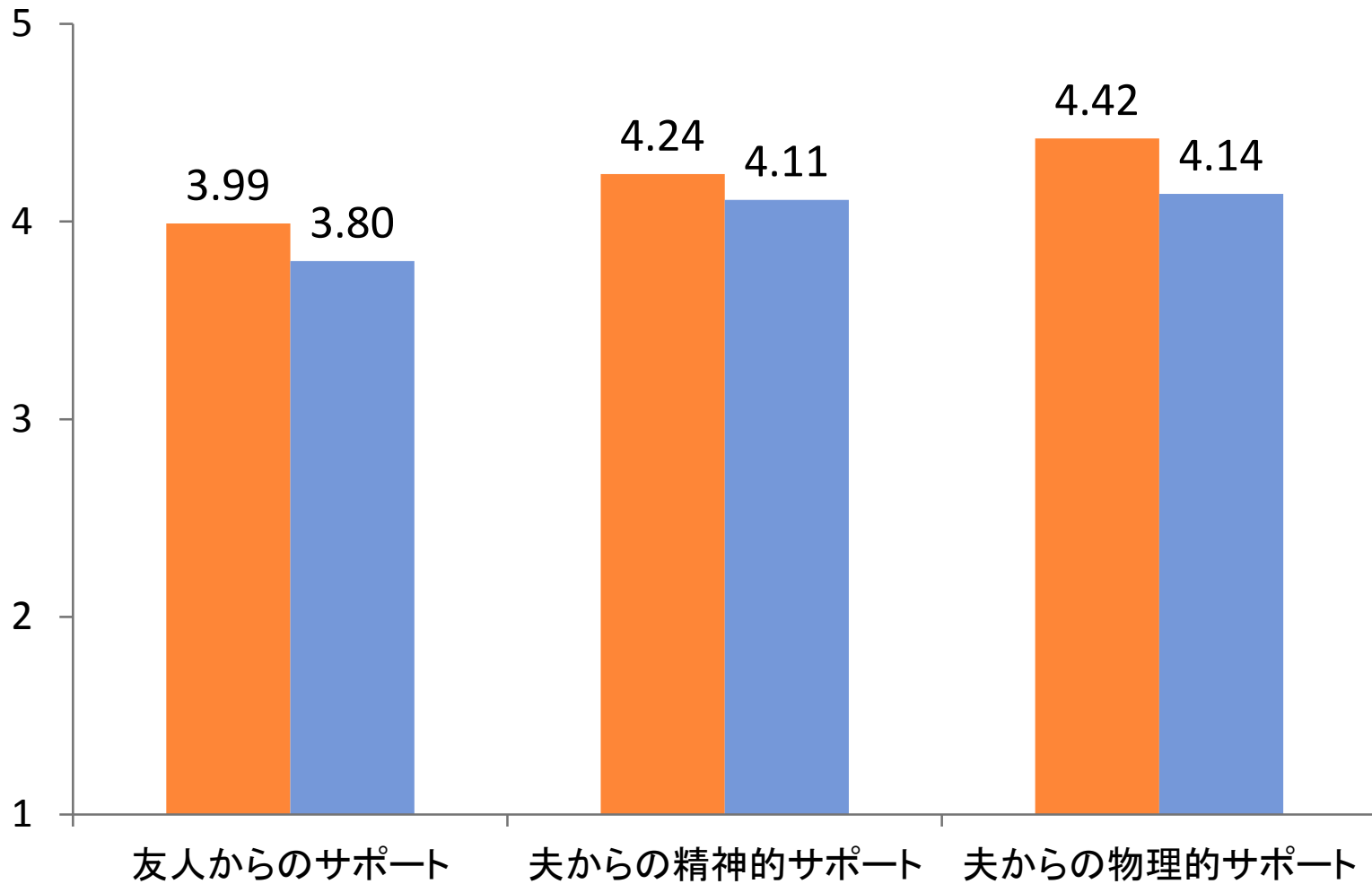
有効回答・・・489部



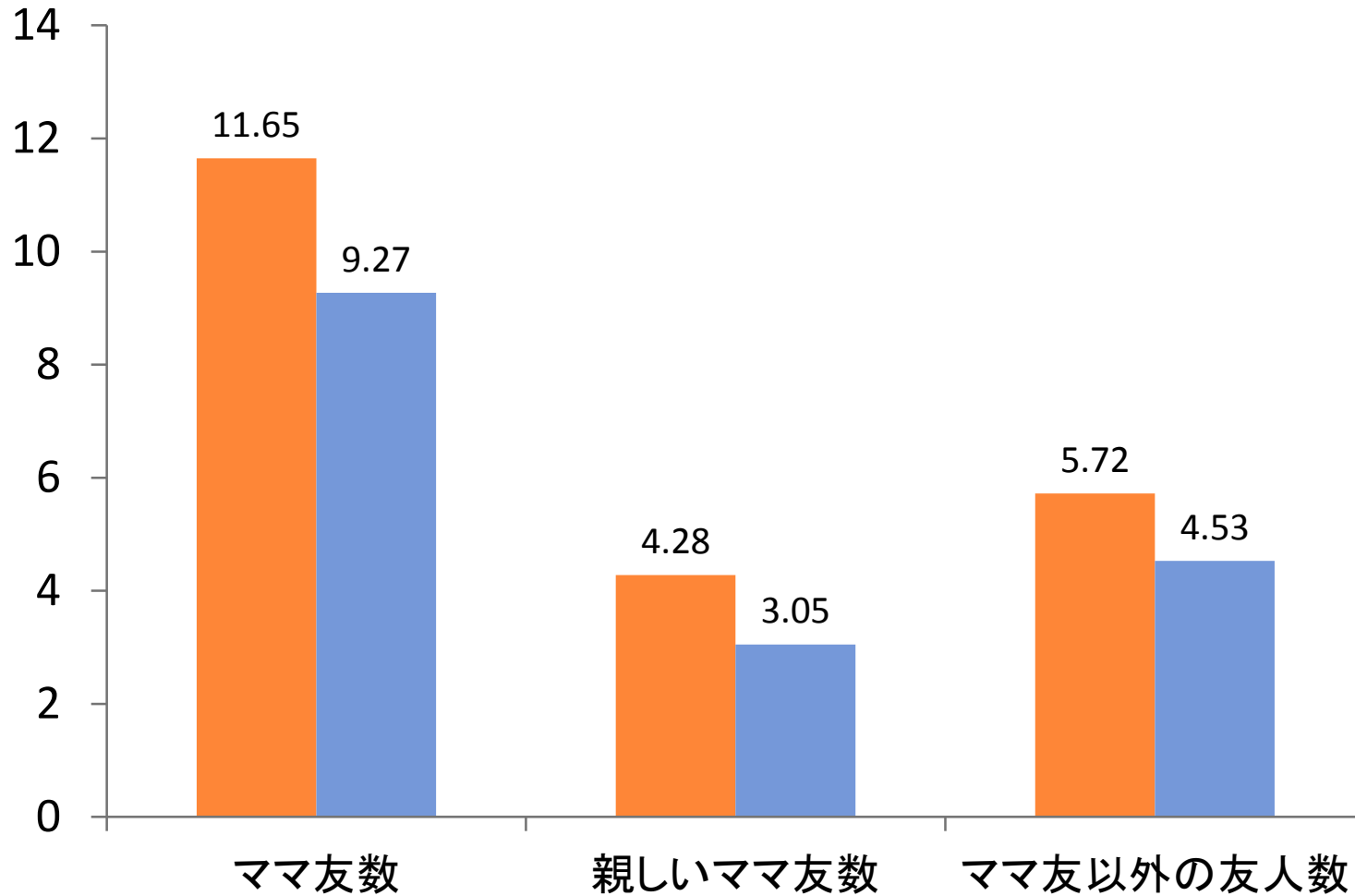
○ SNSの利用者



分析1: SNSを利用している母親の特徴



分析1: SNSを利用している母親の特徴



分析2: SNS利用のサポート効果

自由記述

- ①子育てや自分の体験などで**不安解消**や**様々な情報を得るため**5年ほどよく利用していた。再就職して働き出したころには、同じサイト内のワーキングマザー向けのコーナーで、育児・仕事・家事の両立のさせかたなど意見交換することもあった。＜中略＞自分が発言しなくても**いろいろな考え方を****する人がいるとわかることや、それにより自分を冷静に分析**することができる。今後も、身近な人には相談しにくいことや、客観的な意見を求めたいことがあれば「あのサイトで聞いてみよう」と思っている。



分析2: SNS利用のサポート効果

ケース①

SNS内での交流によってサポートを受領

意見交換・情報交換・悩み相談・不安解消・他者と比較

＝育児サポートの受領と内容一致



分析2: SNS利用のサポート効果

自由記述

- ②市の妊婦の集まりなどでは友達ができず、出産後すぐに引っ越して近所に親しい友達もいない中、友達に紹介されたミクシイで近所の友達ができました。ミクシイがなかったら、こんなに友達もできず育児の相談や日々の悩みを打ち明けられる友人がいなかったと思う。



分析2: SNS利用のサポート効果

ケース②

SNSを介して友人を作りサポートを受領

→SNSが友人を作る(育児サポートを受ける)ための媒体になった

→サポートを受領する環境を作るためのツールとして利用できる可能性



総括：母親のSNS利用の実態

- SNSを利用している母親と利用していない母親と比較し、以下の5つの特徴が見られた

- ①母親の年齢が若い
- ②子どもの年齢が低い
- ③夫からの物理的サポートを多く受けている
- ④友人からの育児サポートを多く受けている
- ⑤ママ友数、親しいママ友数、子どもつながりでない友人数、インターネットで知り合った友人数が多い



総括：ソーシャルサポートとしての意義

ある一定の条件下

○ サポートの役割を担う

・・・退職あるいは引っ越し、実家で出産して周りに友達がいない場合など

←距離や時間が問題にならずに繋がることのできるインターネットの利便性が生かされている

○ サポートを受領する環境を作るためのツールとしての有効性



未就学児を持つ母親のSNS利用について

ご清聴ありがとうございました

生活文化学科 安藤ゼミ 08465087
佐藤美礼

先行研究

- ソーシャルサポート研究

Caplan(1974)

家族や友人、隣人などのある個人を取り巻く人々からの有形あるいは無形の援助

- ①情緒的負担削減のための支援
- ②仕事の分担
- ③金銭・物資・道具・技術などの提供

小杉(1999)

サポートを受けたとの**主観的認識**を持つことが重要



- ・育児ソーシャルサポートの構造 原口ら(2006)
 - ①精神的サポート②育児ヘルプ③居場所作り
- ・安藤ら(2006)
 - 母親のソーシャルサポートが高い方が育児不安は低い
 - 子どもの数が増えるとソーシャルサポートが多くなり社会的に広がる
- ・夫からのソーシャルサポート 榮ら(2006)
 - 育児不安が大きい母親は夫からのサポートをより期待する



○ 育児ストレス研究

(1) 母親の就業形態 荒牧; 2008・野口ら; 2004

専業主婦の方が有職の母親よりも育児ストレスが高い

(2) 父親の育児参加 住田ら; 1999・牧野ら; 1985

夫の育児参加度が高いほど育児ストレスが低い

(3) ソーシャルサポート 荒牧, 2008

園の先生・友人からのサポートが多いほど育児肯定感が高い

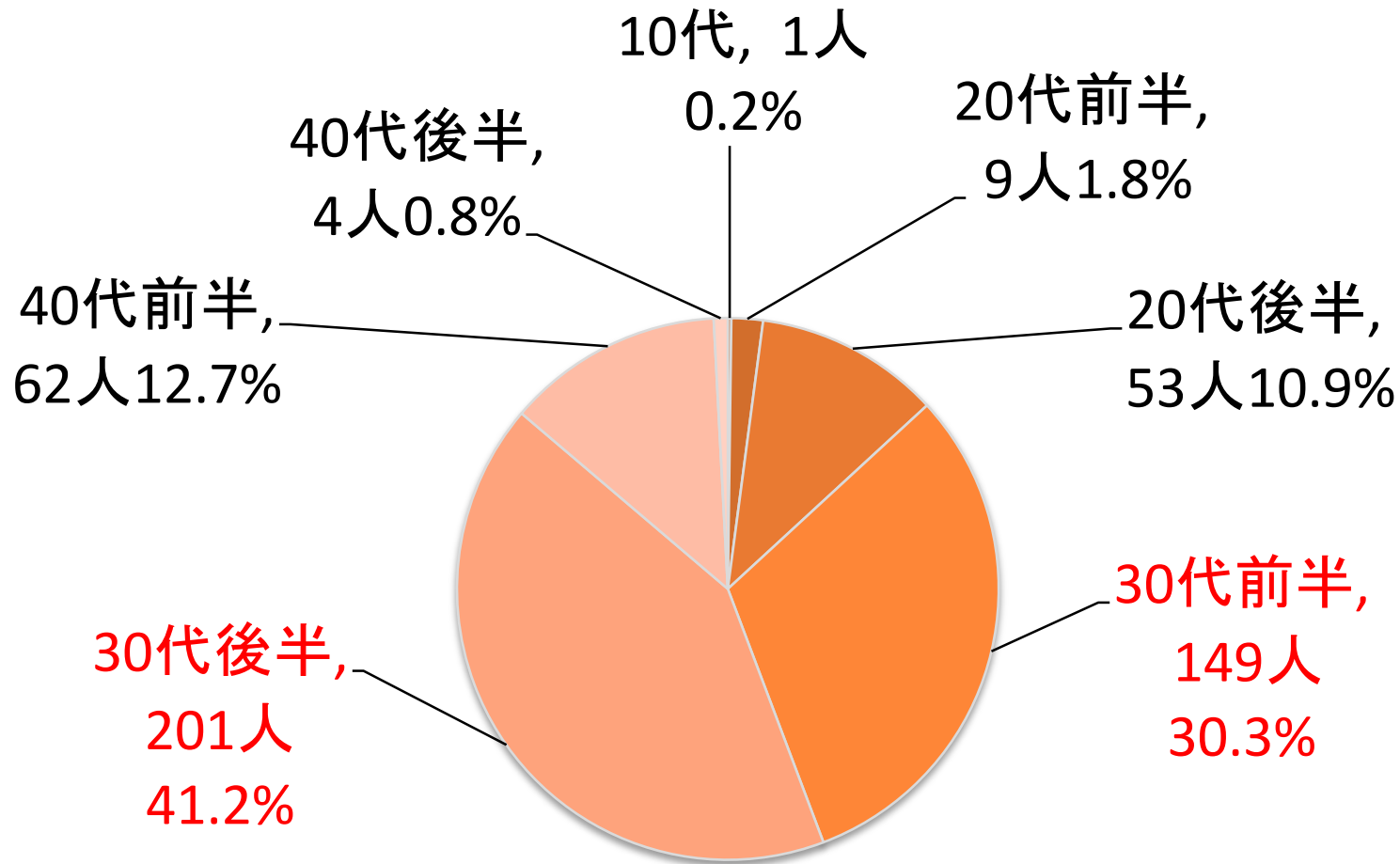
(4) 子どもの数 安藤ら; 2006

子どもの数が増えるほどソーシャルサポートは多くなり
育児負担感や不安感が減少する

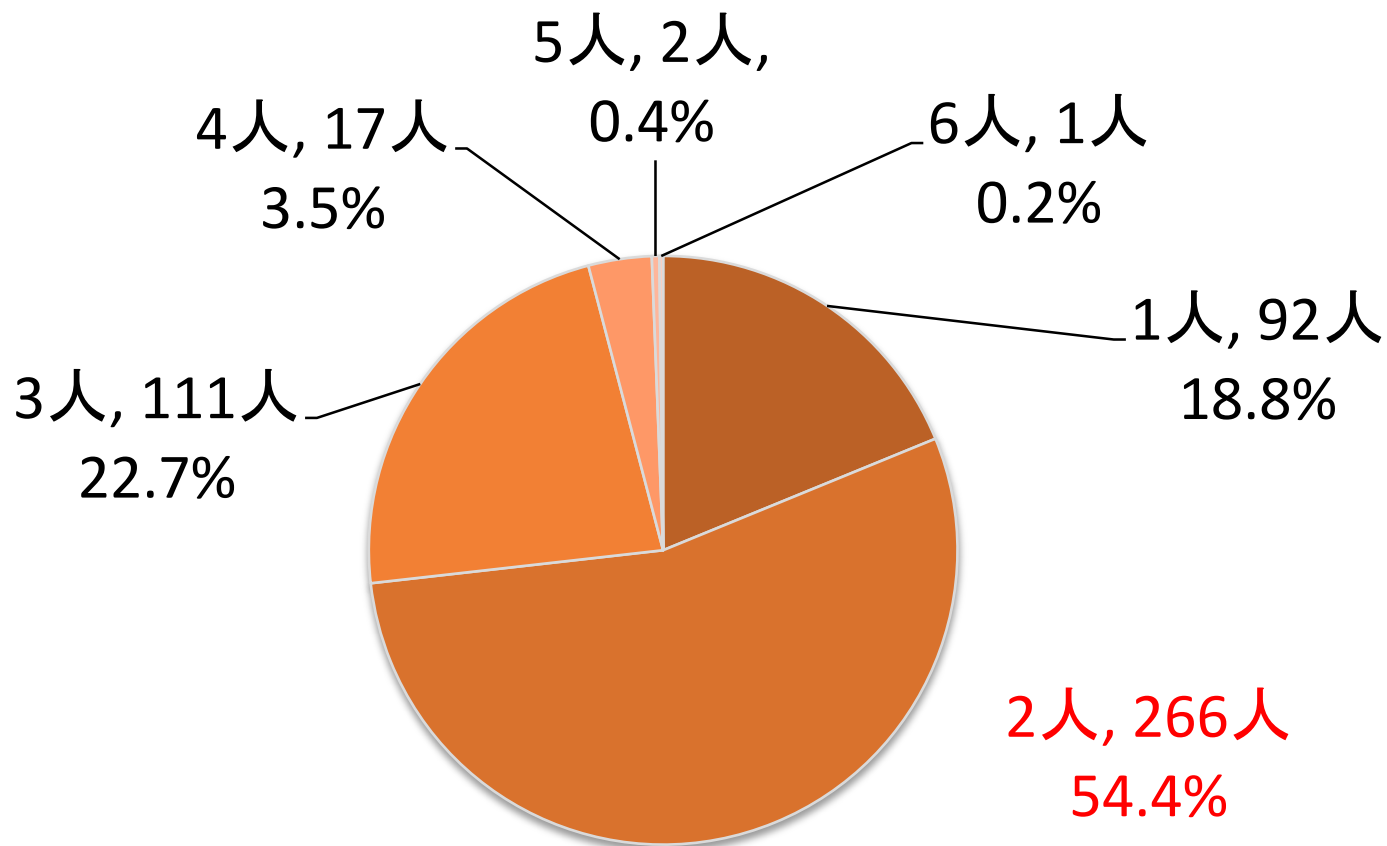


本調査回答者の年齢

平均**34.7歳**



子どもの数 平均2.1人



分析1: SNSを利用している母親の特徴

- SNS利用を独立変数
- 母親の年齢、子どもの数、子どもの年齢、ママ友からの育児サポート、夫からの育児サポート、友人数を従属変数
- 独立したサンプルのt検定

➡ SNS利用とそれぞれの項目間に有意差

子どもの数、母親の就業形態(χ^2 乗検定)・夫婦関係満足度については有意な結果が得られなかった

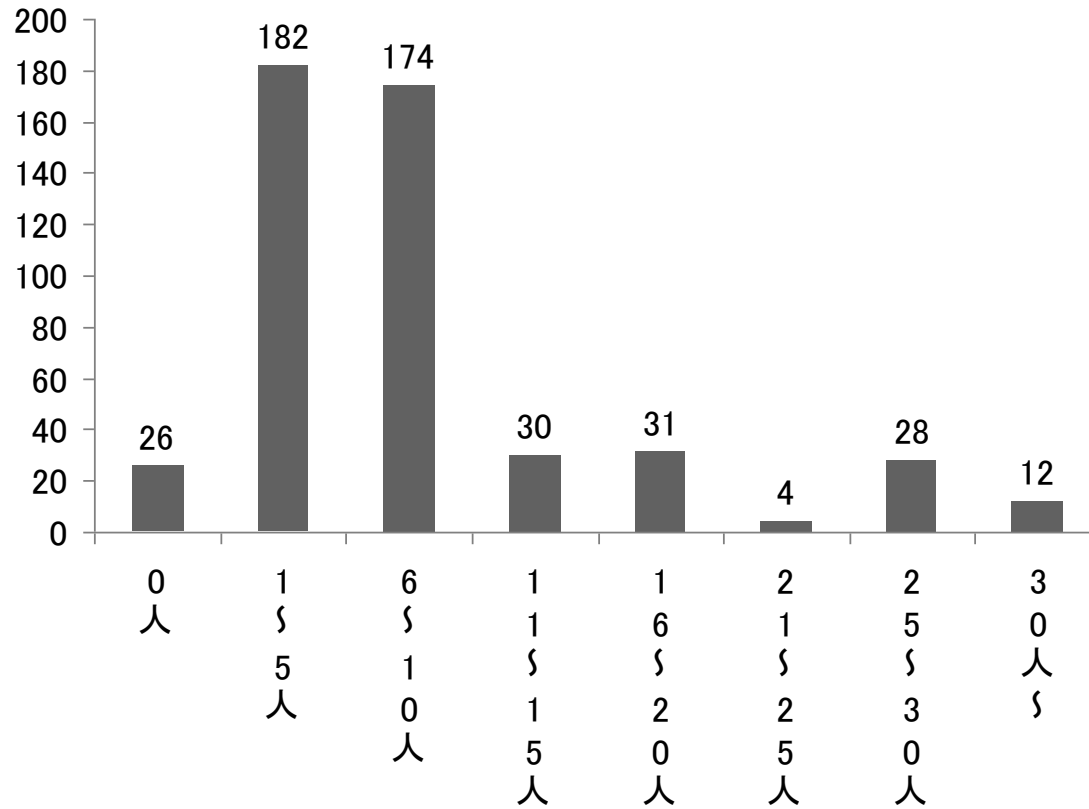


表1 母親の就業状況						
	幼稚園	%	保育園	%	合計	%
フルタイム	5	1.9	68	30.0	73	14.9
パートタイム	29	11.1	111	48.9	140	28.6
自営業	4	1.5	19	8.4	23	4.7
専業主婦	217	82.8	15	6.6	232	47.4
その他	7	2.7	14	6.2	21	4.3
合計	262	100	227	100	489	100



図5 子どもつながりの友人数

回答者数



分析2: SNS利用のサポート効果

- SNSからのサポート < ママ友からのサポート

SNS からのサポート・友人からのサポート 平均値の差			
SNS からのサポート	友人からのサポート	t 値	自由度
3.12***	4.01***	7.67	65



分析2: SNS利用のサポート効果

自由記述

- ①子育てや自分の体験などで不安解消や様々な情報を得るため5年ほどよく利用していた。再就職して働き出したころには、同じサイト内のワーキングマザー向けのコーナーで、育児・仕事・家事の両立のさせかたなど意見交換することもあった。〈中略〉自分が発言しなくてもいろいろな考え方をしている人がいるとわかることや、それにより自分を冷静に分析することができる。今後も、身近な人には相談しにくいことや、客観的な意見を求めたいことがあれば「あのサイトで聞いてみよう」と思っている。
- ②ミクシイで、遠くの同級生で子どもも同級生の人といろいろ自分のこと子どものことを報告しあえて、なかなか会えないけれど会って話したような気持ちになれる。聞きづらいことも匿名でなら聞けることもあって、先入観なしで返答がもらえたり参考になると思う。

分析2: SNS利用のサポート効果

自由記述

- ③市の妊婦の集まりなどでは友達ができず、出産後すぐに引っ越して近所に親しい友達もいない中、友達に紹介されたミクシイで近所の友達がつくれました。ミクシイがなかったら、こんなに友達もできず育児の相談や日々の悩みを打ち明けられる友人がいなかったと思う。
- ④私は出身地から離れ、友達一人いない地域で出産した。病院の看護師に親切にしてもらったけれど、出産後軽い育児ノイローゼになった。しかしミクシイで今の地域の育児サークルに入り助けられた。出産後三カ月くらい外に出れなかったとき、インターネットは心の支えだった。



ロジスティック回帰分析

方程式中の変数

	B	標準誤差	Wald	自由度	有意確率	Exp(B)
ステップ 1 ^a						
A1年齢	-.086	.033	6.619	1	.010	.917
A2子ども数	.419	.202	4.296	1	.038	1.520
A3子の年齢1	-.169	.063	7.260	1	.007	.844
G41夫精神的サポート	.069	.160	.183	1	.669	1.071
G42夫物理的サポート	.415	.180	5.315	1	.021	1.514
I育児ストレス尺度	.195	.229	.723	1	.395	1.215
A4妻就業2択	.228	.256	.796	1	.372	1.257
G5夫婦関係満足度尺度	.454	.163	7.802	1	.005	1.575
H友人からの育児サポートの受領尺度	.272	.241	1.274	1	.259	1.313
ママ友数	.015	.016	.855	1	.355	1.015
J2親しいママ友	.052	.043	1.475	1	.225	1.053
J3その他の友人	.025	.028	.813	1	.367	1.025
定数	-3.420	1.853	3.408	1	.065	.033

a. ステップ 1: 投入された変数 A1年齢, A2子ども数, A3子の年齢1, G41夫精神的サポート, G42夫物理的サポート, I育児ストレス尺度, A4妻就業2択, G5夫婦関係満足度尺度, H友人からの育児サポートの受領尺度, ママ友数, J2親しいママ友, J3その他の友人

今後の課題

- SNSは様々な環境に置かれた様々なひとが、それぞれの目的やライフスタイル、楽しみ方をもって集う場
- 新しいコンテンツやサービス、機能が次々提供
- 多種多様な使い方ができる＝利用者や利用の仕方によって良くも悪くもなる
- 困ったときに手を伸ばしたらそこにヒントが書いてあったり、助けてくれる人を見つけることが出来たりする機能が備わっている
→使い方次第でサポートを受理
- 個人情報保護や、信頼性が低く人間関係が希薄になりがちだという点

SNSがどういう発展を遂げ
人々にどうとらえられていくかに注目したい

